君待つと——万葉・古今・新古今 (4)

古今(こきん)和歌集

J ※人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香(か)ににほひける　紀貫之(きのつらゆき)　（春歌上）

人は、さあ、心がどう変わってしまったのかわかりません。（しかし、）昔なじみのこの土地は、梅の花が昔のままに香っていますよ。

K ちはやぶる神世(かみよ)も聞かず龍田(たつた)河韓紅(からくれなゐ)に水くくるとは　在原業平(ありはらのなりひら)　（秋歌下）

（不思議なことがあったという）神代の昔でも聞いたことがない。龍田川が（流れる紅葉で）韓紅色に水をくくり染めにするとは。

L 思ひつつ寝(ぬ)ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを　小野小町(をののこまち)　（恋歌二）

恋しく思いながら寝たので、あの人が（夢に）現れたのだろうか。夢とわかっていたならば、目覚めないでいただろうに。

※人はいさ～…かつて奈良の長谷寺に参詣するたびに宿を借りていた人の家を、久しぶりで訪れたところ、家の主人から「このように昔のままに宿はありますよ」と言われ、そこに立っていた梅の花を折り取って詠んだ歌。「人」は家の主人を指す。

新古今和歌集

M 道の辺に清水(しみづ)流るる柳(やなぎ)かげしばしとてこそ立ちどまりつれ　西行法師(さいぎやうほふし)　（夏歌）

道のほとりに清水が流れている柳の木かげよ。ほんのしばらく（休もう）と思って、立ちどまったのであったが（涼しさに思わず長居してしまった）。

N 見わたせば花も紅葉(もみぢ)もなかりけり浦(うら)の苫屋(とまや)の秋の夕暮(ゆふぐれ)　藤原定家(ふぢはらのさだいへ)　（秋歌上）

見渡すと、花も紅葉もないことだ。海辺の苫屋の辺りの秋の夕暮れよ。

O 玉の緒(を)よ絶えなば絶えねながらへば忍(しの)ぶることの弱りもぞする　式子内親王(しよくしないしんわう)　（恋歌一）

（私の）命よ。絶えてしまうものなら絶えてしまえ。生きながらえていると、秘める力が弱まって（恋心を人に知られて）しまうかもしれないから。

確認テスト　和歌を読んで、問いに答えなさい。

(1) J～Oの歌の中で、三句切れのものを三つ選び、記号で答えなさい。
〔　・　・　〕

(2) Jの歌で、昔と変わらないものとしてうたわれているものを選びなさい。
ア 人の心　イ なじみの土地の人々
ウ 桜の花の姿　エ 梅の花の香り
〔　〕

(3) Kの歌に含まれる枕詞を書きぬきなさい。
〔　〕

(4) Lの歌について、「夢と知りせば覚めざらましを」の意味を選びなさい。
ア 夢だと知っていたから、目覚めようとしたのに。
イ 夢だと知っていたならば、目覚めないでいただろうに。
ウ 夢だと知らせていれば、目覚めてくれただろうに。
〔　〕

(5) Mの歌の「しばしとてこそ立ちどまりつれ」の表す意味として適当なものを選びなさい。
ア 少しの間と思って立ちどまったが、思わず長い時間を過ごしてしまった。
イ しばしば立ちどまってしまったために、長い時間がかかってしまった。
ウ ゆっくり休もうと思って立ちどまり、ずいぶん長居をしてしまった。
〔　〕

(6) Nの歌について、正しいものを選びなさい。
ア 見渡すかぎりに花と紅葉が広がる光景に、風情を感じている。
イ 花も紅葉もない寂しげな光景に、しみじみと趣を感じている。
ウ 秋なので花はないが、紅葉の美しい光景に季節を感じている。
〔　〕

(7) Oの歌にうたわれている心情を選びなさい。
ア 思いがけないことが起こったことへのとまどい。
イ 何気ないことから感じた、しみじみとした感動。
ウ 人に知られないようにしている、激しい恋心。
〔　〕